

中野地区地域ビジョン

令和4年(2022)年3月

中野地区自治区
(広島県三原市久井町中野)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1	地域ビジョン策定の目的	1
2	地域ビジョンの役割	1
3	地域ビジョン策定の取組	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	地区活動の状況	4
2章	地区の魅力・資源と問題点・課題	6
1	地区の魅力・資源	6
2	地区の問題点・課題	7
3章	地域ビジョン	8
1	地区の将来像	8
2	地区づくりの目標設定	8
3	地区づくりの体系	10
4	地区づくりの基本計画	11
5	計画の推進体制	18

序章 計画策定にあたって

1 地域ビジョン策定の目的

中野地区自治区は、地区活動を強化するために小林、山中野、土取の3区が合併してできた住民自治組織です。山陽自動車道三原久井インターチェンジに近く、広島空港にも比較的近く高速交通条件に恵まれていますが、高齢化・少子化が進行し、地区活動の担い手が不足してきているとともに、商店や公共公益施設が減少し、活力が失われてきています。

こうした状況において、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、中野地区自治区では、平成28(2016)年3月に策定した「中野地区活性化計画」とその後の取組を踏まえて、新たに「中野地区地域ビジョン」の策定に取り組みました。

2 地域ビジョンの役割

「中野地区地域ビジョン」は、中野地区自治区が取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体、事業所などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、中野地区出身者、都市住民、大学生など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 地域ビジョン策定の取組

中野地区自治区では、各種団体の代表者などとともに「中野地区地域ビジョン策定会議」を開催し、「中野地区地域ビジョン」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、住民を対象とした中野まちづくりワークショップ（意見交換会）を開催しました。

1章 地区の概要

1 位置

本地区は、三原市久井地域の中央に位置しています。

地区中心部（中野福祉プラザ）から主要な場所への車を利用した場合の所要時間は、久井支所まで約10分、三原市中心部まで約25分、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約10分です。

図 中野地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、令和3(2021)年で473人になっており、過去5年間で約11%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、令和3(2021)年で0～14歳41人、15～64歳198人、65歳以上234人で、高齢化率は約49%になっています。

年齢別人口の推移をみると、過去5年間で0～14歳及び15～64歳人口は減少、65歳以上人口は微増となっています。

表 人口の推移

(単位：人，%)

区 分		実 数			増減数	
		H23 (2011)年	H28 (2016)年	R 3 (2021)年	H28(2016)－ H23(2011)	R 3(2021)－ H28(2016)
実 数	0～14歳	46	49	41	3	△8
	15～64歳	348	252	198	△96	△54
	65歳以上	191	232	234	41	2
	合 計	585	533	473	△52	△60
割 合	0～14歳	7.9	9.2	8.7	－	－
	15～64歳	59.5	47.3	41.9	－	－
	65歳以上	32.6	43.5	49.4	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年3月末現在）。

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳で見ると、令和3(2021)年で206世帯になっており、過去5年間で8世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は令和3(2021)年で2.30人になっており、過去5年間で0.19人減少しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H23 (2011)年	H28 (2016)年	R 3 (2021)年	H28(2016)－ H23(2011)	R 3(2021)－ H28(2016)
世帯数（世帯）	213	214	206	1	△8
世帯人員（人）	2.75	2.49	2.30	△0.26	△0.19

注：世帯数は、住民基本台帳（各年3月末現在）。

3 地区活動の状況

(1) 中野地区自治区などの団体

ア 中野地区自治区

中野地区自治区は小林区、山中野区、土取区を区域として、10分会で構成しています。

各種事業は、総務企画委員会において協議し、総務企画部、福祉部、環境農産部、体育文化部、高年部、女性部の6事業部において実施しています。

イ その他の団体

その他の団体の活動状況は次のとおりです。

表 その他団体の活動状況

団体名	主な活動
中野地区社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none">・中野地区自治区の福祉部と協力し、敬老会の開催、配食弁当活動の実施・福祉をすすめる会～ほっとくまあや～、やまなみ推進協議会、中野体操クラブは、中野地区社会福祉協議会の事業部として実施
福祉をすすめる会～ほっとくまあや～	<ul style="list-style-type: none">・地区内の福祉学習及び福祉情報の発信、地域の支え合い活動づくりを実施・なかの支え合いセンターの運営
やまなみ推進協議会	<ul style="list-style-type: none">・高齢者の見守り、一人暮らし高齢者への誕生日プレゼントの贈呈・食の支援「やまなみ・ひろば」の運営・ふれあい・いきいきサロンの運営
中野体操クラブ	<ul style="list-style-type: none">・いきいき百歳体操の実施（お茶の間サロンやまなみ・ひろば、ふれあい・いきいきサロン、体操の日等で実施）
中野地区民生児童委員協議会	<ul style="list-style-type: none">・中野地区内の民生委員児童委員の連絡組織で、福祉活動に関する情報交換、情報共有の場・ボランティアでの福祉活動
自主防災組織	<ul style="list-style-type: none">・防災意識の高揚、避難行動要支援者の個別支援計画づくり、防災訓練、災害にも強い地域支え合いマップ作りなどの自主防災活動の実施
三原市消防団たかば分団	<ul style="list-style-type: none">・出初式への参加、消防訓練の実施、火災予防広報活動、災害時の出動等（市の要請等により活動）

(2) 主な地区行事

本地区の主な行事は、次のとおりです。

表 地区行事の状況

開催時期	名 称	主な活動内容
6月	広報「自治区なかの」の発行	・自治区広報を年1回発行
8月	夏まつり	・中野地区全域を対象とした祭り ・盆踊り，ステージイベント，屋台出店，お楽しみ抽選会等
9月	環境保全活動	・地区一斉に空き缶，散乱ごみ等の収集
	敬老会	・敬老のお祝い（ステージイベント，食事会等）
10月	自主防災訓練	・防災に係る意識啓発，避難，炊き出し等の避難所運営訓練の実施
11月	若者との交流事業	・若者との交流コンサート，交流会の開催
12月	ふれあい福祉配食弁当の実施	・年末に一人暮らし高齢者等へ弁当を配布
周年	見守り活動	・高齢者等を対象とした見守り活動 ・一人暮らし高齢者への誕生日プレゼントの贈呈
	高齢者サロンの開催	・ふれあい・いきいきサロンが5グループあり，それぞれ月1回開催 ・地区全域を対象とした食の支援「やまなみ・ひろば」を月1回開催 ・いきいき百歳体操の実施

注：コロナ禍以前に行っていた行事を含む。

(3) これまでの取組

中野地区自治区では、「中野地区活性化計画」に基づいて平成28(2015)～令和2(2020)年度の5年間に次のような事業に取り組みました。

表 5年間の主な取組

区 分	取 組 内 容
高齢者等の支援	・なかの支え合いセンターの運営支援 ・高齢者サロンの開催支援（ふれあい・いきいきサロン，食の支援「やまなみ・ひろば」等） ・高齢者のための出前講座の開催（認知症予防等） ・地域支え合いマップづくりの開催 ・敬老会の開催
伝統行事	・夏祭りの開催 ・若者との交流会・交流コンサート，みんなで笑おう会の開催
生涯学習・スポーツ	・グラウンド・ゴルフ大会の開催
農林地の保全・農林業の振興	・中野地区鳥獣害捕獲チームの活動支援（免許更新支援，捕獲罟及び餌代，ガソリン代の補助）
環境美化	・環境美化活動（空き缶拾い・草刈り）の実施 ・ゴミ分別表の作成・配布
自主防災	・自主防災訓練の実施 ・防災備品の修理，災害時備蓄備品の購入
情報発信	・広報「自治区なかの」の編集・印刷・発行
その他	・中野福祉プラザの整備，備品の購入

2章 地区の魅力・資源と問題点・課題

1 地区の魅力・資源

中野地区の魅力・資源について、「中野地区活性化計画」の内容に中野地区地域ビジョン策定会議及び中野まちづくりワークショップ（意見交換会）での意見等を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源
立地条件	<ul style="list-style-type: none"> ・中野地区中心部から山陽自動車道三原久井インターチェンジ約10分，広島空港約25分と近く，便利が良い
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・仏通寺川（メダカ，ハヤ，ザリガニ等の豊富な生息物） ・吉田山甌穴群 ・みごう湖の景観，みごう湖周辺の桜並木 ・みごう湖にブラックバス，鯉，鮒等が生息し，釣り客が来訪 ・美しい農村景観 ・低い山並で日照時間が長い ・高原の町で空気がきれい（標高300～400m）
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の古い神社仏閣（卯之宮神社，築山神社（巖島），谷八幡神社，法林寺，善正寺，持地庵） ・安芸牛（岩），出雲岩 ・城山（土倉城跡） ・高尾山金助の墓
農地・農業	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい米 ・大規模な農家 ・イチゴ，ブドウ，自然薯，にんにく，エゴマを栽培している農家 ・中野地区有害鳥獣対策チームの取組 ・遊休農地
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・移動スーパーとくし丸の運行 ・乗合タクシーはなさく号の運行 ・空き家
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・なかの支え合いセンターの活動（一人暮らし高齢者の見守り，生活支援等） ・高齢者サロン活動（ふれあい・いきいきサロン，食の支援「やまなみ・ひろば」） ・いきいき百歳体操 ・登下校する小学生への声かけ ・自主防災組織 ・「地域支えあいマップ」の作成 ・広報「自治区なかの」の発行 ・中野福祉プラザ，久井南コミュニティセンター

2 地区の問題点・課題

中野地区の問題点・課題について、「中野地区活性化計画」の内容に中野地区地域ビジョン策定会議及び中野まちづくりワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

区分	問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯の日常生活の不安 交通手段がなく、高齢者サロンに参加できない高齢者がいる 商業施設、医療機関が近くにないので不便 自家用車を運転できなくなった時の生活不安 ゴミの分別やゴミ収集場所までの搬出の困難化 加齢に伴う草刈り等の共同作業への参加の困難化 福祉・介護情報の周知不足 元気な高齢者が収入を得る方法がない
若者定住、子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> 若者が望む仕事がなく、定住しない 結婚しない若者の増加 子どもが少ない、地区外の高校生・大学生等の若者との交流が少ない
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> 来訪客が休息、飲食できる施設がない みごう湖の活用が不十分 みごう湖に来る釣り客の利用マナーが悪い
農地・農業	<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣（イノシシ、シカ、ヌートリア、アライグマ、カラス等）による農作物の被害の増加 担い手の高齢化の進行、若い担い手の不足、将来の農地管理への不安 農地管理の困難化による遊休農地の増加 農業所得が少なく、営農意欲の低下
山林・林業	<ul style="list-style-type: none"> 山林の放置、荒廃化
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 県道改良が不十分 小林交差点等の危険な交差点 路線バスの利用が不便（運行回数が少ない、バス停留所まで遠い等） 店舗が少ない、買い物が不便 空き家の増加、空き家の管理活用
地区活動・近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、高齢化の進行に伴い、地区活動への住民負担の増大 高齢者の地区活動への参加の困難化と若い世代の地区活動への参加不足 小林、山中野、土取といった区単位の意識が残り、中野地区としてのまとまりに乏しい 地区情報が共有されていない 行事への参加者が少ない、特に若者の参加が少ない

3章 地域ビジョン

1 地区の将来像

本計画では、「中野地区活性化計画」策定時に掲げた地区の将来像を踏襲し、次のとおりとします。

＜地区の将来像＞

人と自然が共生する快適地区「中野」

2 地区づくりの目標設定

(1) 目標設定

地区の将来像の実現に向け、次のとおり目標を設定します。

ア 自治区加入率

現状値	めざす方向	目標値	備考
100% (令和3年度)	維持	100% (令和8年度)	・現状値は自治区調べ

イ 新規事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和3年度)	増加	5事業 (令和4～8年度)	・実施計画による

ウ 他団体との連携事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和3年度)	増加	10事業 (令和4～8年度)	・実施計画による

エ 地区への移住者数

現状値	めざす方向	目標値	備考
0人 (令和3年度)	増加	15人 (令和4～8年度)	・毎年1世帯, 3人の移住

(2) 人口の将来見通し

過去5年間（平成28(2016)年から令和3(2021)年）の人口推移が今後も継続した場合の人口の将来見通しを推計すると、地域ビジョン策定年次の令和3(2021)年から20年後の令和23(2041)年には240人になり、令和3(2021)年と比較して半減するものと見込まれます。年齢3区分別人口をみると、各年齢層ともに減少し、高齢化率は約63%になるものと見込まれます。

こうした状況に対して、総人口の減少はやむを得ないも0～14歳人口が増加に転じることを目標として、本計画で掲げる「定住、移住により若者の元気な声が響く地区づくり」をはじめとする各種取組を推進します。その結果、毎年30歳代前半の夫婦（子ども1人）1組が、過去5年間の動向より増加するものとし、令和23(2041)年の総人口を約310人と設定します。

注：人口推計は、島根県中山間地域研究センターの人口予測プログラムを用いました。

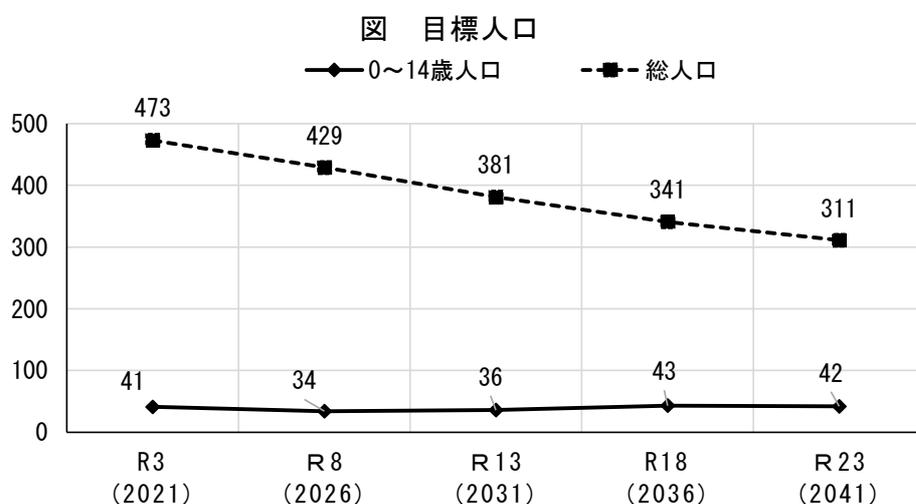


表 目標人口

(単位：人)

区分	実績		推計		
	令和3(2021)年	令和8(2026)年	令和13(2031)年	令和18(2036)年	令和23(2041)年
0～14歳	41	34	36	43	42
15～64歳	198	176	157	139	119
65歳以上	234	219	188	159	150
合計	473	429	381	341	311

注-1：過去5年間の推移と比較して、毎年30歳代前半の夫婦（子ども1人）1組が増加するものとした。

-2：出生率は、H28.4～R3.3までに出生した人口（0～4歳）をR3.3の20～39歳の女性人口で除した値。男性0.171，女性0.163。

-3：令和3(2021)年は3月31日現在の人口。

参考 過去5年間の人口推移が今後も継続した場合の人口推計

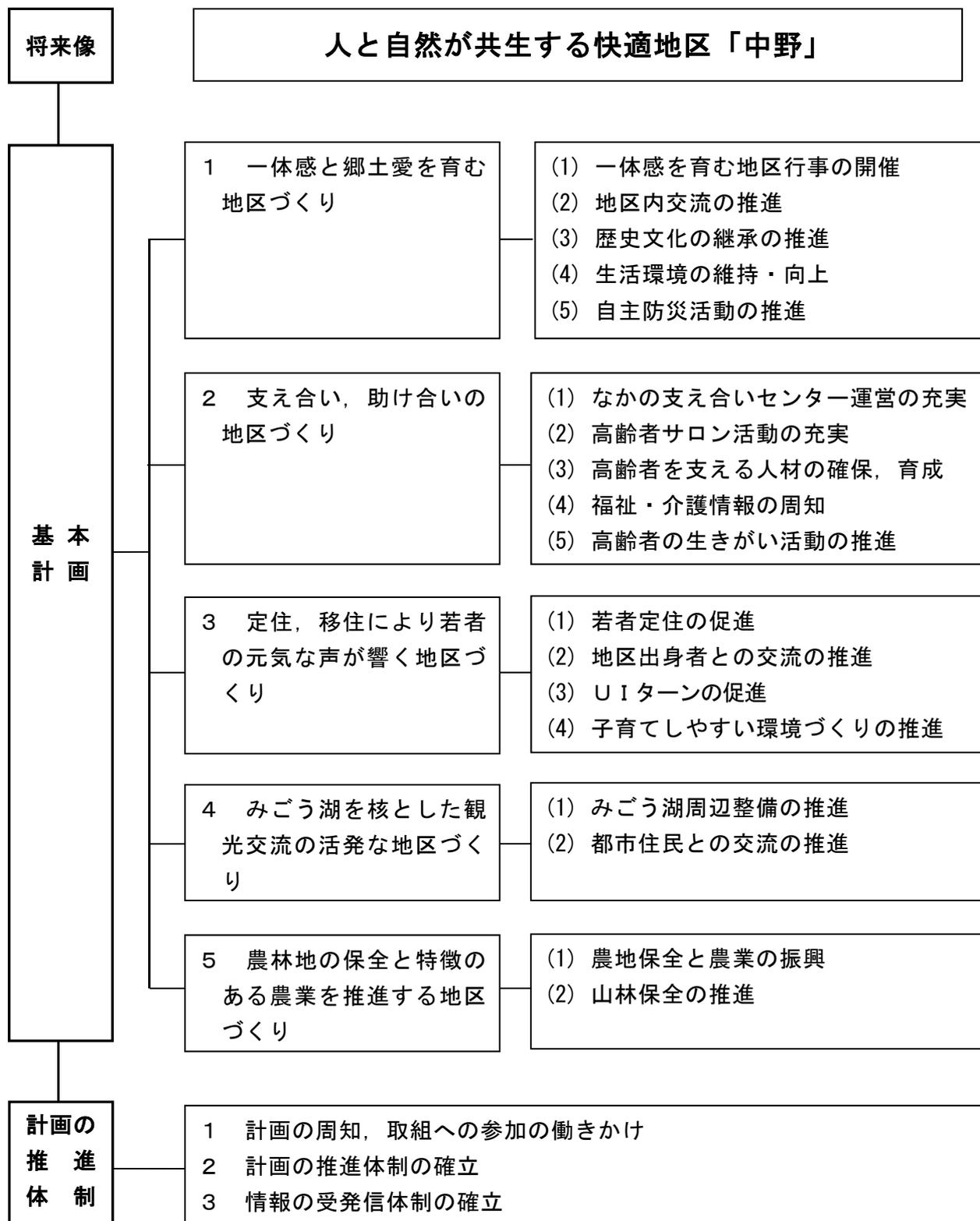
(単位：人)

区分	実績		推計		
	令和3(2021)年	令和8(2026)年	令和13(2031)年	令和18(2036)年	令和23(2041)年
0～14歳	41	27	20	16	13
15～64歳	198	166	139	113	77
65歳以上	234	219	188	159	150
合計	473	412	347	288	240

3 地区づくりの体系

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図 地区づくりの体系



4 地区づくりの基本計画

地区の将来像を踏まえて、地区づくりの基本計画として5つの柱と主な取組を掲げます。

なお、取組事項は、「中野地区活性化計画」を踏まえるとともに、中野地区地域ビジョン策定会議及び中野まちづくりワークショップ（意見交換会）などにおける意見のうち、中野地区自治区をはじめとする各種団体及び住民が取組主体になる事項をとりまとめました。

1 一体感と郷土愛を育む地区づくり

(1) 一体感を育む地区行事の開催

- ・ マンネリ化し、参加者が減少傾向にある既存の行事の見直し、新規行事の企画などに取り組み、地区行事の活性化を図ります。
- ・ 地区の一体感を育むとともに行事の魅力化を図るため、夏祭りなど中野地区全体を対象とした行事の拡充に取り組みます。
- ・ 各行事において、子どもが主役になる機会を用意し、親子連れの参加を促進します。

(2) 地区内交流の推進

- ・ 地区における健康づくり、交流、生涯学習活動を推進するため、久井南コミュニティセンター及び中野福祉プラザの一層の活用に取り組みます。
- ・ 久井南コミュニティセンターでは、他地区の住民とともに生涯学習・スポーツ活動を推進します。

(3) 歴史文化の継承の推進

- ・ 中野地区の歴史文化を次世代に伝えるため、各家に残されている写真の収集、高齢者の聞き取りなどにより明治以降の地区の歴史を記録します。そのほか、地区の歴史を伝える資料の収集に努めます。
- ・ 収集した資料などを保管、展示するために、久井南コミュニティセンターの空き教室の活用に取り組みます。
- ・ 卯之宮神社の大祭など伝統的な祭りの継承を支援するとともに、勉強会の定期的な開催などにより、住民の歴史文化に対する理解及び郷土愛の醸成に取り組みます。

(4) 生活環境の維持・向上

- ・ 地産地消及び都市住民との交流を推進するため、旧JA中野支所などを活用した農産物直売などに取り組みます。
- ・ 移動スーパーとくし丸について、地区住民が一層便利に利用できるようにニーズを踏まえた運行を働きかけます。
- ・ 乗合タクシーはなさく号の周知を徹底するとともに、利用者ニーズを踏まえた運行を働きかけます。
- ・ 交通事故の防止を図るために、交通量の多い交差点へ信号機の設置を働きかけます。

(5) 自主防災活動の推進

- ・専門的知識を持つ人材の育成（防災士取得支援，研修会，講習会への派遣によるスキルアップ等）に取り組むとともに，避難所運営に必要な人材の確保に取り組みます。
- ・家庭における防災対策（地震時の対応，避難袋の準備等）の周知，地区ハザードマップの配布及び地区の実情に応じた避難マニュアルの作成・配布など，防災・減災に係る情報の周知，意識啓発に取り組みます。
- ・中野地区支えあいマップの定期的な更新に基づく要支援者避難支援体制（要支援者と支援者のマッチング）の維持・強化に取り組みます。
- ・災害時における的確な避難情報の伝達，避難，炊き出し及び避難所運営訓練の充実などにより，安全かつ迅速な避難ができる体制の確立に取り組みます。
- ・自主避難場所へ防災倉庫の設置や必要な備蓄品の整備に取り組みます。

2 支え合い、助け合いの地区づくり

(1) なかの支え合いセンター運営の充実

ア 運営体制の強化と支援を頼みやすい雰囲気づくり

- ・一人暮らし高齢者の日常生活を総合的に支援するために設置した「なかの支え合いセンター」について、中野地区自治区と中野地区社会福祉協議会（福祉をすすめる会～ほっとくまあや～、やまなみ推進協議会を含む）及び民生委員児童委員などが連携して取組を推進します。
- ・支援を必要とする高齢者が気楽に相談できるように、日常的な近隣づきあいを大事にするとともに、「お互い様」の雰囲気づくりに取り組みます。

<事業内容>

- ・事業目的：日常生活に不安のある一人暮らし高齢者の支援
- ・事業対象：支援を希望する住民で、安心カード登録者
- ・事業内容：各種相談、見守り
買い物、ごみ出し、災害時避難支援
高齢者交流の場の提供
等

イ 見守りの充実

- ・10年以上継続している一人暮らし高齢者に対する見守り活動を一層充実するために、日常的な挨拶や声かけの強化を通じて、困りごとを気軽に相談できる関係づくりに取り組みます。
- ・民生委員児童委員、見守りサポーター、福祉をすすめる会～ほっとくまあや～、やまなみ推進協議会などを中心とした見守りを充実するとともに、分会単位で支え合う体制の強化に取り組みます。
- ・一人暮らし高齢者へ誕生日カードにプレゼントを添えて送る活動を継続します。
- ・訪問しても会えない高齢者（耳の遠い方等）への対応を検討します。

ウ 生活支援

- ・乗合タクシーはなさく号の周知を徹底し、利用促進に取り組みます。
- ・高齢者に喜ばれている移動スーパーとくし丸の運行の維持・充実を運行事業者に働きかけます。
- ・ゴミ分別のわからない高齢者、ゴミ出しが難しくなっている高齢者に対する支援に取り組みます。
- ・草刈り等の共同作業への参加が難しくなった高齢者等への支援に取り組みます。
(分会単位での取組)
- ・高齢者の生活を便利で豊かなものにするため、高齢者向けのスマホ教室（SNSの利用、買い物・外出支援及び遠隔医療等への将来的な活用等）の開催に取り組みます。
- ・一人暮らし高齢者などへの年末の弁当配りを今後も継続します。

(2) 高齢者サロン活動の充実

ア 食の支援「やまなみ・ひろば」の充実

- ・中野地区全域の高齢者を対象として開催している食の支援「やまなみ・ひろば」の内容（昼食，百歳体操，レクレーション等）の充実に取り組みます。
- ・交通手段のない高齢者のために，食の支援「やまなみ・ひろば」への送迎対策を検討します。（乗合タクシーはなさく号の利用，スタッフの送迎等）

イ ふれあい・いきいきサロンの充実

- ・身近な区域を対象として，小人数で開催しているふれあい・いきいきサロンの維持・充実に取り組みます。

ウ 高齢者サロン参加の促進

- ・各種サロンのPR（開催場所，開催日時，活動内容）を徹底するとともに，高齢者相互の声かけにより，サロン参加者の拡大に取り組みます。
- ・高齢者サロンへ男性の参加を促進するプログラムを検討します。

(3) 高齢者を支える人材の確保・育成

- ・なかの支え合いセンター，高齢者サロンなどの運営スタッフを確保するため，高齢男性，若い世代に対する高齢者福祉活動への関心の醸成に取り組みます。

(4) 福祉・介護情報の周知

- ・高齢者サロンなどで福祉・介護に係る情報の出前講座，勉強会の開催などにより，制度の周知に取り組みます。
- ・若年層に対して，ITを活用した福祉・介護に係る情報の発信に取り組みます。

(5) 高齢者の生きがい活動の推進

- ・元気な高齢者が地区の中で様々な生きがい活動（趣味教養，スポーツ，社会貢献，就業等）ができるように，なかの支え合いセンターへの担い手として参加，農林業における軽作業への参加など，様々な参加機会の確保，提供に取り組みます。

3 定住、移住により若者の元気な声が響く地区づくり

(1) 若者定住の促進

- ・雇用の確保→若者定住・U I ターンの増加→子どもの増加といった好循環の流れを作るため、地場産業の活性化に関係機関と連携して取り組みます。
- ・若者相互の交流を促進する場を確保するとともに、地区を挙げて若者の婚活を支援します。

(2) 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者との定期的な交流を進め、地区に対する関心を高めるとともに、地区行事への参加、退職後などのUターンへ結びつけます。
- ・地区情報の発信については、広報「自治区なかの」の送付、インターネットを通じての情報発信に取り組みます。

(3) U I ターンの促進

- ・地区外へ中野地区の魅力及びU I ターン情報をホームページ、ユーチューブなどで発信します。
- ・U I ターン希望者に対して、地区の紹介、おためし居住の場の提供、空き家及びU I ターン支援制度の紹介、困りごとへの対応などの支援に取り組みます。
- ・空き家を活用してU I ターンに結びつけるため、空き家及び空き家所有者の調査、空き家の利活用に関する意向調査など行い、空き家所有者に対して空き家の管理及び家財整理の支援を行うとともに、市の空き家バンクへの登録を働きかけます。
- ・U I ターン者が地区に早く馴染めるように、近所づきあい、生活ルールの紹介、U I ターン者相互の交流等の応援に取り組みます。

(4) 子育てしやすい環境づくりの推進

- ・登下校時の小中学生に対する声かけの輪を拡大するなど、地区の子どもと大人の交流を推進します。
- ・地区体験豊かな子どもを育てるために、自然、歴史文化、農林業、工作、防災訓練など様々な体験を提供する「子ども（園児・小中学生）が集う場づくり」に取り組みます。
- ・長期休暇中などにおいては、多人数の同世代の子どもとの交流を通じて成長が促されるように、都市部（三原市中心部）の子どもを招いての交流に取り組みます。
- ・就学前の子どもと保護者や小中学生が安心して遊べる広場の確保、整備に取り組みます。
(久井南コミュニティセンターグラウンド、中野福祉プラザ周辺の活用)

4 みごう湖を核とした観光交流の活発な地区づくり

(1) みごう湖周辺整備の推進

- ・住民相互及び地区外からの来訪客との交流を促進するために、地区を特徴づけているみごう湖周辺の整備と来訪客の誘客に取り組むほか、マナーの悪い釣り客への対応を検討します。

<取組内容>

- ・ダム管理者（三原市）との調整
- ・道路沿道の整備（草刈り，雑木の伐採，桜並木の修景）
- ・整備対象地区の選定と整備計画の策定
 - ・ウォーキングコースづくり（入門，上級等）
 - ・ジョギング・サイクリングコースづくり
 - ・バス釣りスポットの設置
 - ・休息広場，子どもの遊び場，キャンプ場の整備
- ・中野地区案内看板，案内マップづくり
- ・交流イベントの開催
- ・農産物直売所の設置・運営

(2) 都市住民との交流の推進

- ・来訪客に対して，みごう湖周辺におけるイベント開催をはじめとする多様な地区体験の提供に取り組みます。

<体験メニュー例>

- ・自 然：仏通寺川での川遊び（魚釣り，メダカやザリガニ採り等）
- ・歴史文化：卯之宮神社，出雲岩，吉田山甌穴群，城山（土倉城跡）等の学習
- ・農 林 業：田植え，稲刈り，芋掘り等の農業体験，山林の間伐，竹，木材の加工体験
- ・そ の 他：山陽自動車道の標高最高地点周辺の景観を題材にした写真撮影会の実施，久井南コミュニティセンターで写真コンテストの開催
- ・若者が減少している中野地区において，近隣の高校生・大学生と連携して，地区外から誘客するイベント（みごう湖を舞台とする野外コンサート等）の開催に取り組みます。

5 農林地の保全と特徴のある農業を推進する地区づくり

(1) 農地保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策の確保

- ・中野地区鳥獣害捕獲チームの担い手の増員，捕獲技術の向上などに取り組むとともに，捕獲免許の取得・更新，備品購入などへの支援を強化します。
- ・中野地区鳥獣害捕獲チームを核とした地区を挙げての有害鳥獣対策を推進するため，有害鳥獣情報の収集体制の強化，共同防護柵の設置，農地と山林の境の定期的な草刈りなどに取り組めます。
- ・駆除したイノシシ，シカの肉，皮等の活用方策を検討します。

イ 農業の担い手の確保

- ・中野地区農地保全対策協議会（仮称）を関係団体（中山間直接支払制度締結集落，アグリック明豊，中核農家等）の協力のもとに立ち上げ，将来的な農業の担い手不足への対応を検討します。
- ・農業経験のない地区住民（60歳未満）を対象とした農業塾を開校し，担い手の育成に取り組めます。
- ・農業の担い手不足に対応するため，大規模農家への農地の集約化に取り組むほか，地区で農地の集約や中古農業機械を確保するなどの営農環境を整えたうえで，新規就農希望者の募集に取り組めます。
- ・食料品スーパー（エブリィ，フレスタ等）などの企業の農業参入を働きかけるほか，外国人労働力の活用，高機能農業機械の導入によるスマート農業などについて検討します。

ウ 遊休農地の活用

- ・遊休農地を市民農園として整備し，非農家，都市住民へ貸し出しに取り組めます。
- ・集落景観や土砂崩れなどに配慮しつつ遊休農地の太陽光発電への活用を検討します。

エ 農業の振興

- ・中野地区では，米だけでなく，イチゴ，ブドウ，エゴマ，自然薯，にんにくなどの特産物があり，こうした農産物のブランド化に向けてPRの強化，JA以外の販路の開拓を支援します。（地区特産品のPRチラシづくり，農産物直売所の設置，インターネット販売の支援等）
- ・新たな特産品として米粉を作り，米粉パンの製造・販売を検討します。

(2) 山林保全の推進

- ・荒れている山林の間伐，植林，竹林の拡大防止などにより里山の再生に取り組めます。また，こうしたことを通じて，有害鳥獣被害の軽減を図ります。

5 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取組への参加の働きかけ

- ・各種団体の会合などで「中野地区地域ビジョン」の周知に取り組みます。
- ・住民一人ひとりの地区づくりへの当事者意識を醸成するとともに，地区づくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画の推進体制の確立

「中野地区地域ビジョン」を実行する体制を次のように確立し，各種事業の実施に取り組みます。

ア 幅広い参加と持続的に活動できる体制の確立

- ・「中野地区地域ビジョン」の実行にあたっては，中野地区自治区が核になるとともに，中野地区の各種団体と連携して取り組むこととし，それぞれの団体へ幅広い人材の参加を働きかけます。
- ・自治区活動の活性化を図るために，地域支援員の配置に取り組みます。
- ・中野地区自治区などの活動へ女性，若者の参加を促進するため，同世代の横の結びつき，若い世代の多い消防団，保護者会及びPTAなどを活用した参加の働きかけ，会議の開催曜日・時刻への配慮などによる参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・地区の人材，事業所などの得意分野を整理したリストを作成し，地区づくりに適材適所で協力してもらう体制を確立します。
- ・講習会・研修会などへの派遣，講演会の開催，先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

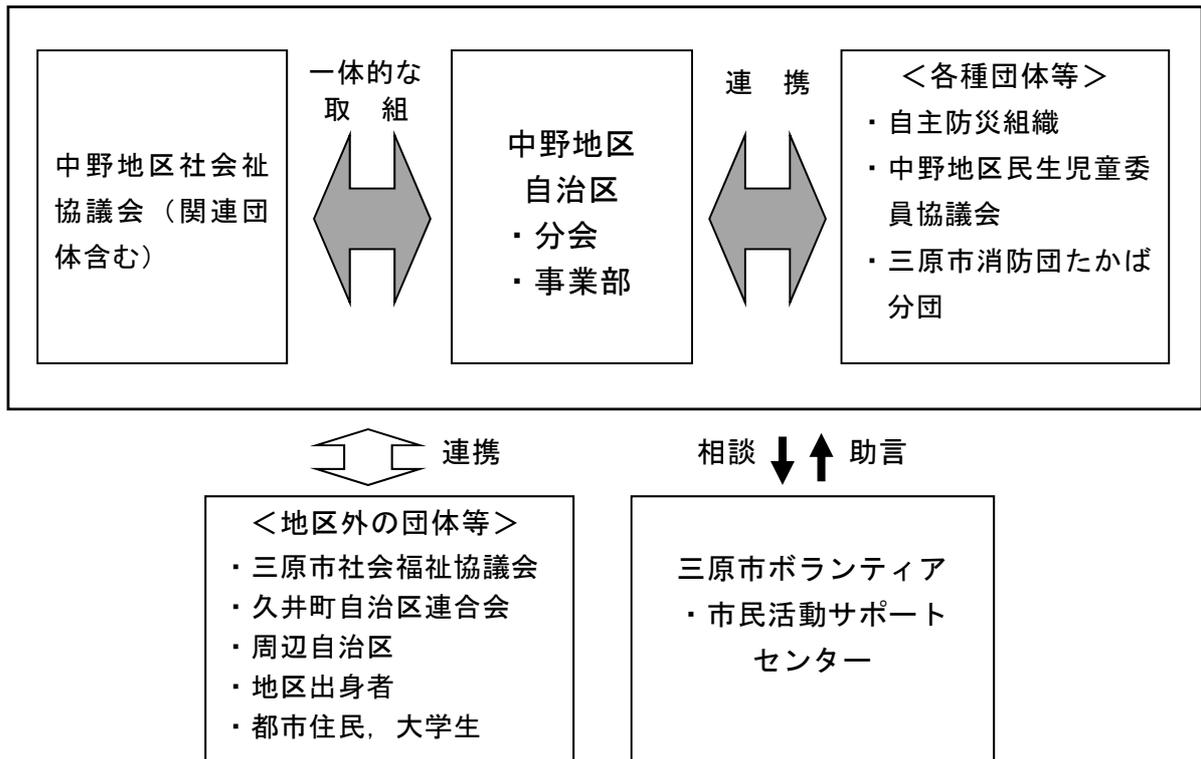
イ 地区外の個人，団体との連携の強化

- ・三原市ボランティア・市民活動サポートセンターと連携し，地区づくりへの助言，専門的人材の紹介・派遣などの支援を受け，地区づくり活動の活性化を図ります。
- ・三原市中山間地域の共通課題（高齢者の生活支援，UIターン促進，観光・交流，情報発信等）へ効果的に取り組むため，久井町自治区連合会及び周辺自治区との連携を強化します。
- ・地区外の団体との連携を強化して地区づくりへの応援を受けるとともに，地区出身者，都市住民，大学生などに対して，地区行事への参加や地区づくりへの応援を働きかけます。

ウ 活動財源の確保

- ・活動資金を確保するため，収益事業の導入を積極的に検討するほか，国，県，市などの支援制度の活用を図ります。
- ・農産物直売所，観光・交流事業をはじめとする収益事業の受け皿として，NPO法人や住民出資の地区づくり会社などの設立に取り組みます。

図 中野地区地域ビジョンの実行体制



(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内への情報の受発信

- ・地区情報が住民一人ひとりに周知徹底できるように、回覧板を通じて情報周知を徹底します。
- ・広報「自治区なかの」については、各種団体の活動、中野地区の魅力・資源、歴史文化、人材など地区住民が関心のある情報発信に取り組みます。
- ・若者世帯に対しては、フェイスブック、ラインなどを活用した情報の受発信に取り組みます。

イ 地区外への情報の受発信

- ・中野地区自治区のホームページ、フェイスブックなどの設置・運営に取り組み、地区出身者、都市住民、大学生などに対して地区の魅力や年間行事・祭りカレンダー、UIターン支援情報などを発信します。
- ・各種団体、個人のホームページ、フェイスブック、SNSなどを通じて、地区外の知人・友人などへの情報発信を働きかけます。

ウ 人材の確保・育成

- ・中野地区のホームページ、フェイスブックなどを管理、活用できる人材の確保・育成に取り組み、タイムリーな情報の受発信体制を確立します。